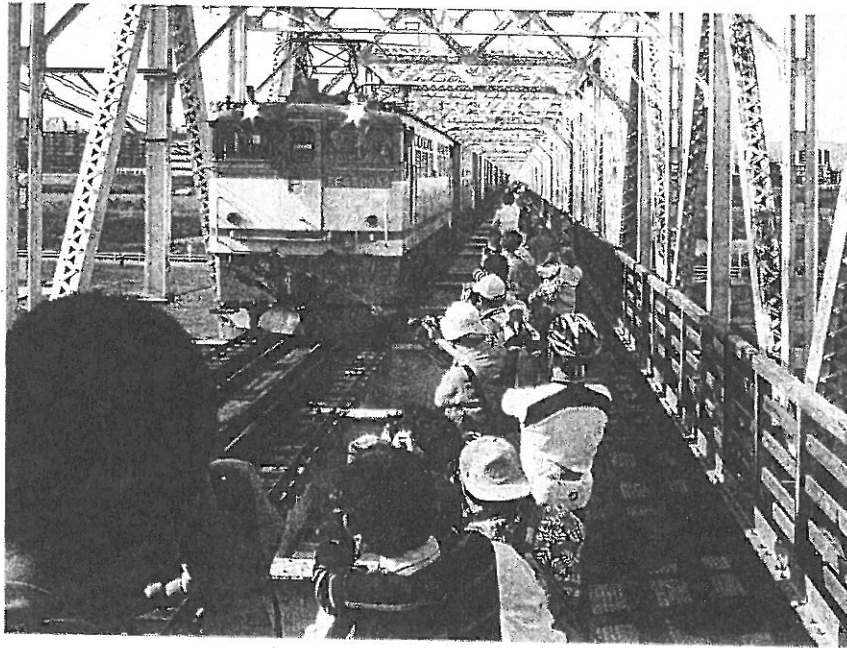


# 城東貨物線の「赤川鉄橋」



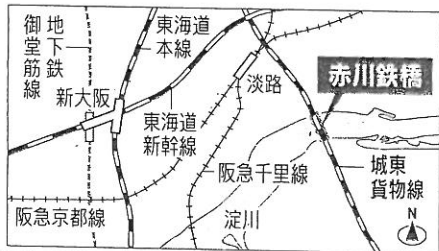
31日で歩行者用の「赤川仮橋」がなくなる淀川橋梁（大阪市）

# サヨナラ「歩ける鉄道橋」

列車と人がともに通る全国的にも珍しい大阪市北部の鉄橋「淀川橋梁」（通称・赤川鉄橋）の歩道部分が、他路線の乗り入れに伴い今月末に閉鎖される。架橋から84年。間近を走る列車を

ながめながらの通勤・通学、買い物……。慣れ親しんだ生活の1コマが無くなることを惜しむ声は多い。貴重な光景を写真に収めようと橋は住民や鉄道ファンらで連日にぎわっている。

## 月末に歩道閉鎖 住民ら、名残惜しむ



木製の手すりの1はほど先を「ゴ」と轟音（ごうおん）を響かせながら橋の上を走る貨物列車。歩道部分の閉鎖が迫る赤川鉄橋は連日、JR城東貨物線の列車や橋を撮影しようという数百人の鉄道ファンや住民らでにぎわっている。

淀川に架かる赤川鉄橋は全長約610mで、大かつては通勤で毎日通ったという旭区の無職、向田明男さん（71）は退職後も毎朝欠かさず橋の上をジョギング。「景色が良くて気分がリフレッシュできた。色々思い出が詰まっている」と振り返る。

歩道の閉鎖は「おおさか東線」の延伸工事に伴うもの。2008年に部

分業した同線は、19年春には市北部の新大阪駅（淀川区）と放出駅（鶴見区）が結ばれ、その区間の一部で赤川鉄橋を利用する。

名残を惜しむ地元住民の要望を受け、橋が通る旭区は26日に「さよなら赤川鉄橋」と題したメモリアルイベントを開催する。鉄道ファンらが写した

阪市の東淀川区と、旭・都島両区を結ぶ。1992年に複線仕様の鉄道橋として旧国鉄が建設。片方の単線のみを使う予定だったため、同年のうちに片側部分を大阪市が借り受け、板を張り付け木製の手すりなども整備。歩道部分の「赤川仮橋」（幅約1・8m）が誕生した。

年月を重ねた橋の歴史は住民の人生とも重なる。東淀川区の主婦、三納由紀恵さん（29）は母に連れられ橋を通過して買い物に行った頃を今も思い出す。「鉄道好きの長男もよく連れて来る。親子3代で慣れ親しんだ橋が使えなくなるのは残念」と惜しむ。

た写真を展示するほか、記念グッズも販売する。鉄道ファンで、よく撮影に訪れるという兵庫県三木市の会社員、瀬古修さん（50）は「間近を走る列車を真横から撮影できる最高の場所。特に先頭車両の機関車だけの運行は時刻表にも載って

おらず、撮影が楽しかったです」と話し、絶好の撮影スポットが消えるのを惜しんだ。